

2016 年度・2017 年度に「マグネット病院の特性等にもとづく看護実践環境の評価：健康的に働き続けられる Healthy Work Environment 特性の解明と応用」郵送調査へ
ご回答くださいました看護職の皆様へ

追加分析のお知らせ

この度、東京医科歯科大学高齢社会看護ケア開発学分野を含む以下の研究班により、物的・人的資源を含む職場環境のうち、特定の側面に着目し、以下のような追加分析研究を行うことになりました。研究対象は、2016 年度・2017 年度に表題の郵送調査へご回答頂いた皆様であり、追加分析の対象データは皆様のご回答内容です。既にご回答頂いた内容についての追加研究であり、この掲示によるお知らせを持って同意をいただいたものとして実施させていただきます。

本研究への質問や参加の辞退を希望される場合は、下記の連絡先へご連絡をお願い致します。

○研究の概要

研究題目：マグネット病院の特性等にもとづく看護実践環境の評価：健康的に働き続けられる
Healthy Work Environment 特性の解明と応用

研究期間：東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会承認後から 2027 年 07 月 31 日

研究責任者：緒方泰子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科高齢社会看護システム管理学分野・教授）

研究班の構成：緒方泰子¹⁾、湯本淑江¹⁾、森岡典子¹⁾、佐々木美樹¹⁾、菅田勝也²⁾、武村雪絵³⁾、西岡みどり⁴⁾、
武富貴久子⁵⁾、田中理子⁶⁾、米倉佑貴⁷⁾、網中眞由美⁴⁾、加藤憲⁸⁾、木田亮平⁹⁾ 他

¹⁾東京医科歯科大学大学院、²⁾京都看護大学、³⁾東京大学医学部附属病院、⁴⁾国立看護大学校、

⁵⁾札幌市立大学、⁶⁾九州大学、⁷⁾聖路加国際大学、⁸⁾愛知淑徳大学、⁹⁾東京大学

○研究対象者

2016 年度・2017 年度に当該研究課題の郵送調査にご回答下さいました看護職の方々

○研究の意義・目的

職場環境を人間関係的要素も含めて捉え、複数の側面から検討することにより、看護職が健康的に働き続けられるような職場環境（Healthy Work Environment：HWE）の特性の解明につながることを期待されます。今回の追加分析の目的は、HWE の特性を明らかにすること、HWE 創出に必要な看護管理者の役割、組織構成員の役割等を明らかにし、HWE を実現していくための看護管理モデル開発に有用な情報・知見を得ることです（研究目的に変更はありません）。

○研究方法

今回の研究におけるデータ解析は、研究班全体で行います。2016 年度・2017 年度の当該研究課題への看護職の方々による回答データを用いて、下記内容について解析します。使用するデータは無記名自記式質問紙へのご回答であるため、個人を特定する情報は含まれません。質問紙の作成・印刷・発送・回収・データ入力を本学（一部委託）において行い、入力されたデータ（質問紙への回答）はすべて、本学で保管します。

＜研究内容＞

- ・本研究の全体像についての記述
- ・組織的公正に関する職位による認識の違い
- ・組織的公正が心的健康や職務態度、看護の質に与える影響
- ・看護の質と組織コミットメントとの関連
- ・看護職の健康・バーンアウトと緩衝役割としての伴侶動物との関連
- ・看護職の健康と医療関連感染(率)との関連
- ・ワークエンゲイジメントと職場環境、仕事への態度、職務満足感、職業継続意向・行動との関連
- ・看護職属性、経験年数等によるワークエンゲイジメントの違い

- ・看護スタッフ-看護師長、看護師長-看護副部長のワークエンゲイジメントの関連と要因
- ・仕事役割、家庭役割の有無と、ソーシャルサポート、バーンアウト、就業継続意向との関連
- ・職場環境としての「医師-看護師関係」に関連する要因の検討
- ・いじめの経験と個人の健康や組織アウトカム指標との関連の検討
- ・SOC等の個人属性と看護職の健康状態等アウトカム変数、職場環境要因等との関連の検討
- ・看護実践環境の変化と組織コミットメントの変化の関連、その関連への組織的・個人的ストレス対処能力による影響の検討 など

○試料等の保管と他の研究への利用について

データは匿名化した状態で使用し、所属大学の規定に従い 10 年間保存します。当該データは、再び東京医科歯科大学の研究に利用される可能性があります。その際には、改めて東京医科歯科大学倫理審査委員会の承認を得ることとします。

○予想される結果(利益・不利益)について

利益：人的・物的資源を含む職場環境の特徴を量的に捉えることができ、看護職が健康的に働き続けられるような職場環境（Healthy Work Environment：HWE）の特性の解明につながる事が期待されます。直接的な個人の利益が得られる訳ではございません。

不利益：特にありません。

○研究協力の任意性と撤回の自由について

研究への参加・不参加は任意であり、ご自身の自由意思にもとづいてお決め下さい。協力されなくても、貴院やご自身に不利益は生じません。協力の中止、回答内容撤回の場合には、いつでもご連絡下さい。また、本研究は業務には関係なく、協力しなくても業務に支障はありません。ご協力をいただけない場合は○問い合わせ等の連絡先にご連絡をお願いします。

○個人情報の保護について

研究成果公表やデータ保管の際は、個人を同定できない形をとり皆様のプライバシーを遵守します。

○研究成果の公表について

追加分析の結果は、学術総会や学術誌上で論文等として公表する予定です。

○費用について

研究資金は、日本学術振興会科学研究費助成事業による研究助成金（代表者：緒方泰子）、高齢社会看護システム管理学分野寄附金です。本研究では、経済的負担および謝礼は特にありません。

○利益相反について

この研究について、研究班のだれも、何れの機関とも利益相反状態はありません。本研究の実施にあたっては、東京医科歯科大学医学部臨床研究利益相反委員会に申請を行い、承認されています。

※利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

○問い合わせ等の連絡先

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 高齢社会看護システム管理学分野 緒方泰子

電話：03-5803-5358（平日9:00～17:00）

苦情窓口：東京医科歯科大学医学部総務掛 TEL:03-5803-5096（平日9:00～17:00）